

プラトーン「法律論」(第一章)

野見山, 温

<https://doi.org/10.15017/14455>

出版情報 : 法政研究. 8 (1), pp.197-248, 1937-12. 九州大学法政学会
バージョン :
権利関係 :



翻

譯

プラトーン「法律論」(第一章)

野見山 溫 譯

「さて之等の事ども(三十人政下に於ける實情)や國政を掌る人々や、又法律や風習やを見て、しかも年齢の進むに伴れて愈々觀察すればするだけ、それだけ私には國政を正しく經綸することは益々困難であることが察せられたのでありました。何故なら親しい人士や誠ある伴侶なくしては到底行ひ得ないことだからです。しかもかゝる人物を差當つて見出すことは易しいことではないのです。何故なら吾が國は最早や父祖の慣習や制度の中で經綸されてはゐなかつたからです。して他に新進の人物を或る容易さをもちまして得るといふことも不可能だつたのです——そして法律の規定も風習も腐敗しそれも驚くべく甚だしさを加へたのでした。その結果私は、はじめ公務に仕へんとするの大願に滿されて、之に眼を注ぎそれが全く滅茶苦茶に運用されるのを見まして、遂には茫然として了つたのでした、そして一面には之等の點や殊には全統治體制におきまして一層良くなるにはそも／＼如何にすべきかを檢索することを止めず、他面には仕へるの機會をいつも待つたのでしたが、遂には現時の凡ゆる國々に就きましてそれらが皆誤つた政治をされてゐることに氣附くに至つたのでした——何故と申しまして彼等の

法生活は最早や何等かの僥倖を伴ふ奇蹟の方策なしには殆んど收拾し得ない状態にあるからです——そこで私は次のやうに言つて以て正しい哲學といふものを推奨せざるを得なくなつたのでした、即ちこれ（正しい哲學）からこそ義しい國政も私人の全生活も觀得すべきものである。人類は正しく且つ眞實に哲學する人々の類ひが國政指導に入り來るか又は諸國家内の支配階級が或る天恵によつて眞に哲學するに至る迄は、禍より免れることはないであらう、とです。之はプラトーンの書簡第七中の一節（三二五C—三二六B）である。未だ若冠の頃「やがて一人前になつたならば、國の公務に仕へる」（同書簡三二四B—C）ことの念願を立てたプラトーンが不斷に心を置いたその祖國アテーナイの運命は、内に黨爭と革命とが相次いで國を壞り、外は同文同種の國々と戰つて變夷を誘致するの危險にあり、日に非を加へて衰頹の一路を辿つてゐたのである。憂心遂に「茫然として了つた」といふ青年プラトーンをこの時提へたものは何よりも先づ、アテーナイを「そも／＼如何にすべきか」といふ憂國の關心であつた。列國の諸々の制度を研究してもみた。然しその何れにも唯新たなる失望を見出すに過ぎなかつた。最早や單に制度の問題ではなくなつたのである。實に之が運用にたづさはる人間こそが問題であつたのである。茲に於てプラトーンは自ら政治家たるよりもむしろ高邁の識見ある人物の育成に身を捧げんことを企圖し、かくしてアカデミーヤの生活は始まつた。世界哲學の不涸の源泉たる彼の全思索は現實祖國の運命についての悲痛なる體驗の所産であつたのである。プラトーンにとつて「政治は哲學と同義である」（エ・ホヴァルド）と言はれるのも實にこの故であらう。

而して黨爭ベクスイスよりも和解デアラガを説き、法律の原理を單なる正義よりも徳全體ベサハレテ又は究極的正義デアカイヌネーレといふ綜合的人格原理に求め、又之等一切を教育パイデイアに懸らしめ、はては「幼年より徳性の爲めにされる教育、即ち義を以て支配し又支配するゝことを知る完全なる國民たらんとするの大志あり熱情ある者たらしむるものを以て」眞の教育であると喝破するに至つた所以のものも誠

に彼の國民的體驗を通じてはじめて理解されるところであり、プラトーンその人はこゝに瞭然と顯現してゐるのを覺える。そして實に之等の點を説き去り説き來つてゐる「法律論」第一章を茲に譯出した所以のものも亦こゝにあるのである。プラトーンの政治法律思想と言へば、その若年の頃の理想主義的「國家論」が主として専ら參照せられ、彼が七十餘年の生涯の絶稿たり遺稿たる「法律論」に於ける、最も深められ又中庸を旨指す現實精神の豊かなる思想は多く顧られてはゐないのである。せめてその根本思想の窺はれ得る第一章のみにても紹介したく、菲才の能ふ限り原文に忠實な譯を試みた次第である。

尙ほ本書は本年度第一學期に於ける哲學演習の教科書として用ひられたもので、譯者は右演習に於ける鹿子木員信先生の御高導を受けて本譯を試みたものに過ぎず、謹んで先生に感謝し奉る次第である。

原典としては England; Platon, The Laws, 1921 に據り、別に獨・英・羅典の諸譯を參照した。且つ分節は Eyth 及び Apelt に從つた事を附記しておく。

對話の人物

アテーナイの客

クレイテーの人クレイニ阿斯

ラケダイモーンの人メギッロス

第一章

—

アテーナイの客 朋がたよ、貴方がたにとりましては
神がそれとも人間の或者が法律制定の^{アテナイ}因を握つてゐる
のでありますか。

624

クレイニ阿斯 神です、お客人、實に最も正しいところ
を申しまして、神なのです。わたしどものところ
ではゼウスでありますし、此の御方がそこから出て來
てゐられる、ラケダイモーンの人々にありましては、
人々はアポローンだと言つてゐると存じます。さうで

すね。

メギッロス はあ。

アテーナイの客 ではホメーロスに従つてかう仰言る
でせうか、ミノースは父の手許に九年毎にはいつでも
行き通つては彼による宣明に遵つて貴方がたの國々に
法律を立てたものであるとすね。

クレイニ阿斯 誠にさうわたしどものところでは言は
れてゐます、その上實に彼の弟ラダマンテウスも——
名前は慥かに御耳馴れになつてゐるものですが——至
極の義者であつたこともすね。で彼につきましては
少くもわたしどもクレイテーの者は彼が當時司法に關
する事共を正しく取扱つたことからしまして此の好評
を贏ち得たのであると申せるでありませう。

625

アテーナイの客 いや實に立派な名聲でゼウスの御子
には大いにふさはしいものです。そこで貴方と此の御

方とは左様な法律的習俗の中にお育ちになつたのですから、今統治體制と法律とに關しまして御一緒に途行き傍ら御話したり御聽きたりして暇鎖することは御こゝろわるくはないだらうと思ふ次第ですがね。で

クノソスからゼウスの祠洞と神殿への道は、わたしどもの聞くところでは、全くたつぷりあり、それに此

の節は息づまるやうな暑さでして、道に沿ふて、きつと、高い樹々の中には日蔭の憩み場所が御座いますし、わたし共の年配には幾度も其處で息を入れては、談話でお互勵まし合ひながら途の程すべてをかうして氣樂に終へるのがふさはしいことでありませう。

クレイニ阿斯 それに又、客人、先の方に参りますと絲杉の叢林がありましてそれは高く美しくて絶妙なものが御座いますよ、又芝生もありまして其處でわたしどもは憩みながら閑談することが出来ますでせう。

アテーナイの客 それはいい話ですね。

クレイニ阿斯 まつたくです、ですが實見しましたらまた一人に左様申すことで御座いますよ。ところで参ることにいたしませうかな、幸よくですね。

二

アテーナイの客 それでは。してあたしに説明していただき度いのですが、何に據つて法律は貴方がたにあの會食や體育やあの武裝やを命じて來てゐるのですかね。

クレイニ阿斯 わたしどもの處の事を掴むことは誰にでも容易なことだと思ふのですがね、客人、だつてクレイター全體の國土の性質を御覽なさい、如何に、テッサリヤ人の夫のやうには、平坦でないかをですね。だからこそ實にあの人らは騎をむしろ用ひるに對し、

わたしどもは歩なのです。それといふのが國土がそれ凸凹でして徒歩駈の訓練にむしろ一層適當なものだからです。でかういふ事情におきましては輕快な武器をこそ把り持ちまして重荷を持つて走らないことを餘儀なくされるわけです。で弓箭の輕快さこそ適應してゐると考へられる次第です。そこでかういふ事共はすべてわたしどものところでは戰爭の爲めに備へられたので御座いまして、萬事につけ立法者は、少くもわたしに察せられますところでは、それを眼目にして規律したもののなのです。蓋し會食にしましても彼は、皆が戰場に在るときは何時といはず、その場合自己の護りの爲めにその期間中は會食することを事情そのものの上からしまして餘儀なくさるものである事を見て、集め催はしたものと見えるからです。で私に思ひまするに、萬人にとつては永久に生涯を通じての斷へざ

る戦ひが一切の國家に對してあるといふことを衆人悟らざるの心なさを責めたのであります。で苟も戦に在る者が防衛の爲めに會食すべきであり且又或る指揮官と被指揮者とが彼等の警備兵として配備されてあらねばならぬとしますればです、これは平時に於ても爲さねばなりませぬ。何故なら大低の人々が平和と稱するものは、それは名のみであつて、實は萬國にとつては萬國に對つて永遠に宣戦せられざる戰爭が本然の相として在るのだから、といふのです。して斯く見て參りますれば大略御分りになるでせう、クレイター人の立法者は戰爭を狙つて公私一切の法律をわたしどもに命じたのであり、かくの如き事由に據つてまた法律を守るべきことを授けたのである。人が萬一戰爭で勝たぬことがあれば、他の何物も、所有も制度も、何等の益もなく、敗者の財はすべて勝者のものになるのだとし

て、といふことをですね。

三

アテーナイの客 いやア、朋よ、察しますところ、貴方は立派な薫陶を受けられたらしく、クレーテアの法制を洞見なさるに至つてゐられますね。だがなほ一層はつきりしたところをわたしに語つていただき度いのですがね、つまり善く統治された國家の規矩として貴方の定立せられましたものに就いてですが、貴方は戰爭に於て他の諸國に打勝つやうにそのやうに統制經綸すべきものだと仰言つてゐられるやうにわたしには思へるのですが。一體さうのですか。

クレイニ阿斯 まつたくさうです。それに此の御方も左様御同感だと思ふのです。

メギツロス どうして一體別の御答へが出來ませう、

プラトーン「法律論」

師よ、苟くもラケダイモーンの者でしたら誰にしましてもです。

アテーナイの客 では國家對國家にあつてはその事が正しいといひまして、して村落對村落にあつては異なるか否かですね。

クレイニ阿斯 少しも。

アテーナイの客 ぢや同じ事ですな。

クレイニ阿斯 はあ。

アテーナイの客 して如何でせう、一村内の家對家にあつても、又一對一の人と人とにあつても、依然同じ事ですか。

クレイニ阿斯 同じ事です。

アテーナイの客 して自我對自我にあつてはいかゞ、敵人對敵人に於ける如くに推し考ふべきでありますか、それとも尙ほ又どう申したら。

クレイニアス おゝアテーナイの客人——實は貴方をアッチカの方とは御呼びし度くないのでして。と申しますのはわたしには貴方には女神の御名によつて御名指し申し上げる方がむしろふさはしくゐられると思へるのですよ。何故といつて貴方は論點を根本にまで正しく導き來つて一層はつきりしたものにされましたからです、そこで貴方は只今わたしどもに依つて立言された點が正しいといふことを容易に觀取なさいませう、萬人は萬人にとり公的に敵であり、又私的にも各人自らが彼等自らにとつてさうであるといふことですよ。

アテーナイの客 どうだと仰言つてゐるのですか、驚くべき方よ。

クレイニアス 此の場合に於てもです。客人、自我が自我自身に勝つことが一切の勝利の中の第一にして最

善のものであるのでして自我が自我自身により打負かされることは萬事の中最も恥づべきものとすると同時に最惡のものであるのです。是が乃ち我々各自の内に吾々自身に對する戰の存在する事を示してゐるのです。

アテーナイの客 それでは今逆に話を轉還してみませう。つまり吾々各個人は或は自己自身より一層の强者であり、或は一層の弱者であるといひますと、いかゞですかね、之と同じ事實を家や村や國家も自身の内に持つてゐると申したものでせうか、それとも申すべきではないのでせうか。

クレイニアス 或ものは自己自身よりも一層の强者であり、又或ものは一層の弱者である事實を仰言るのですか。

アテーナイの客 はい。

クレイニアス 是亦御尤もな御訊ねをなされました。

實際まつたくしかも甚だしくさうした事實は在るので御座りまして、殊に諸國家内部に於きましては決して忽そかならぬものがあるのですよ。實際優秀な者が大衆や劣等者に勝つ限りの處にありましては、その國家自體は自己自身よりも一層の强者であると言はれ得ますし、又かような勝利の故に至極當然に賞讃せられ得るものですが、逆の場合ですと逆なのです。

アテーナイの客 それでは今劣等者が優秀者より強力

なことが嘗つて何處かにあるものかどうかといふ點は措きませう。更に龐大な論究を要しますからね。そこで貴方の申されました事は今かついふ風に了解してゐるのですが、つまり往々にしてですね、同族であり同一國家に屬する國民が、不正で且つ多數相寄つて、正しい少數者たる者を壓迫し隸屬せしめんとすることがあるであらう、そして彼等が威を逞しくする

ときには、その國家自體は自己自身よりも一層の弱者たると同時に惡しきものであり、又彼等が屈服する處にあつては、一層の强者たり有爲のものであるとまさしく稱せられ得るのであるとです。

クレイニ阿斯 それも頗る奇異ではありますね、客人、今仰言られた事は。然しながら矢張りさうだと同じ申し上げるよりどうも致し方ありません。

四

アテーナイの客 一寸御待ち下さい。そして翻つて次の事を考察してみませう。こゝに多くの兄弟が一人の男と一人の女との子としてあるといたしませう。しますると彼等の多數が不正者で、少數が正者であることは何等不思議ではありませんまい。

クレイニ阿斯 慥かにありませんね。

アテーナイの客 そして、陋劣な者等が打勝つときはその家や氏族自身全體が自己自身より一層の弱者であり、又打負かされるときは一層の强者であると稱せられ得るといふ點を追求めますことはわたしにも貴方がたにも當を得たものではありません。何故と申しますに只今わたしどもが考察してゐるのは衆人の言辭を前にして用語の妥當か不妥當かといふことの爲めではなく、法律の公正と缺陷とに關するのであります、之には一體如何なるものが本然的には在るのであるかといふにあるからです。

クレイニ阿斯 至極肯綮に當つた御話です、客人。

メギッロス さう實に立派です、わたしにおきましても御同感ですよ今のところ少くともこれまでの點ではですね。

アテーナイの客 では更に次の事を吟味いたしませう。

只今お話したばかりの彼の兄弟達に對しまして誰かが裁判官となり得るものでせうか。

クレイニ阿斯 勿論ですとも。

アテーナイの客 すると孰れが一層優れた者でせう、彼等の中のある限りの惡人を壊滅し、善人自らが自己自身を支配することを命ずる人でせうか、それとも有用な者をして支配せしめ、陋劣な者については生存することは許しつゝ進んで支配を受くるものたらしめ得るが如き人ですか。ところが徳に於て第三の裁判官と呼びたいものがあります、若し誰かそのやうな人が存在し得るとしますればですがね、即ち内訌ある一つの氏族をとり上げて何人をも壊滅することなく、和解せしめ、法律を彼等に與へて嚮後相互間を緊く警めて友としてあるやうになし得る如き人がそれです。

クレイニ阿斯 そのやうな裁判官たり立法者こそはる

かに優れた者で御座いませう。

アテーナイの客 それに又戦争とは實に眞反對の事を眼目として彼等に對し法律を制定するものでありませう。

クレイニ阿斯 それは眞實ですね。

アテーナイの客 して如何でせう國家を統括する人は、むしろ外部に對する戦争を眼目としてその生活を秩序立てるものですか、それともその内部に何時でも

發生することのある戦争、即ち黨争ストライクと呼ばれるものを

眼目としてですか。是は誠にすべての人が自國內に決して起らないやうにそして起つたら能ふ限り速やかに妨遏されることを最も欲する筈のものです。

クレイニ阿斯 それをでありますことは瞭らかです。

アテーナイの客 では黨争の何れか一方が勝ちましてですね、相手方が方が壊滅せしめられて平和が生れる

ことを、人は喜ぶものでせうか、それともむしろ友愛と平和とが和解ディアルガによつて生じ、かくして外部の敵に必要あれば注意を向けることをですか、何れでありませうね。

クレイニ阿斯 總ての人は自國に於ての事情が前者の如くよりもむしろ後者の如くなることを欲するでありませう。

アテーナイの客 ちやあ立法者も同様にですね。

クレイニ阿斯 無論ですとも。

アテーナイの客 それでは最善の事の爲めに一切の法制を總べての人は設けるものではないでせうか。

クレイニ阿斯 いかにもさうです。

アテーナイの客 ところが最善の事とは實に戦争でも黨争でもなく、かういふものは無くて済むことこそ願はしいのでありまして、相互間の平和並に友情エイレネー、フィロプロスネーこそ

そがさうなのです、それで、惟ひまするに、國家自ら
 が自己自身に勝つことは最善の事に屬するのではなく
 して必然事たるを常としてゐるのであります。宛も病
 弱の肉體が醫學的淨化を受けたその場合が最善の状態
 に在るものと或人が信ずるときには、全然缺くること
 のない肉體といふものに少しも思ひ寄らない様にで
 すね、同様に或人が國家や私人の幸福ユウグアイモニアについてまさ
 ういふ風に推し考へまして、外部の敵を狙ふことを専
 らとし第一としますならば、決して正しい政治家とは
 成り得ないであります。又むしろ平和の爲めに戰
 争の事を立法するのではなくして對敵の爲めに平和の
 事を立法するとしますれば、儼然たる立法者たること
 は出来ないであります。

五

クレイニウス その御説は、客人、正しく述べられた
 ようにいかにも見受けられるのですがね、どうも不思議
 なのです、若しわたしどもの處の法制も更にはラ
 ケダイモーンに於きましての夫も全くの眞面目さを以
 て對敵の爲めに造られたのではないといえますれば
 ですね。

アテーナイの客 多分はさうかも知れませんよ。然し
 何も頑強に今わたしども自身が争ふ必要はないのでし
 て、わたしどもにせよ彼等にせよ之等の事項につきま
 して眞摯なものですから、靜かに探究することこそ必要
 なのです。でわたしに跟いて論を一緒に進めて行つて
 下さい。兎も角テュルタイオスを先づもつて來てみま
 せう、彼は生れはアテーナイ人でしたが、此の御方の
 處の國民になつたもので、之等の事項につきましては
 人々の中最も眞摯だつた人でして、こんな事を申して

ゐるのです。

吾れ胸にとどめすまじ心にもかけまじき士なれこそ、

人よしとも富む人なりとて、と彼は申します、はたここだけの財有てど、など殆んど一切の事柄を述べ、戦ひにしていとも常秀でたる者ならざらば、としてゐるのです。之等の詩句は恐らくは慥かに貴方も御聴きになられてゐませうし、此の御方などは惟ひまするに、これを満喫せられた方でせう。

メギッロス まつたくです。

クレイニウス それにわたし等の處にもラケダイモンから渡つて來たのですよ。

アテーナイの客 扱て今御一緒に此の詩人にまあかういふ風に諮ねてみませう。「テュルタイオス、いとも神韻ある詩人よ——といふのは貴下は、戦争に於ける

プラトーン「法律論」

異士を殊の外に頌へられた事、誠に賢にして善であられるとわたしどもには思はれるからです——して既にわたしも此の方も又此のクノーススの人クレイニウスも相携へてこの點に就いては貴下と頗る一致してゐるやうに思へるのです。併し吾々が果して同じ人物について語つてゐるものかはたゐないものか、はつきりと観たく思ふのです。でわたしどもに仰言つて戴きたい、元來戦争の二類型といふものをわたしども同様に貴下もはつきりと御信じになつてゐるか、如何か」と。之に對しましては思ひまするにテュルタイオスよりも遙かに凡庸な者でも人は眞理を語るでありませう、二つあるとすね、一つはわたしどもがこぞつて黨争と稱するもので、之は實際凡ゆる戦争の中最も險難なものでありますこと、わたしどもが只今申した通りです、戦争の他の類型としましてわたしどもがこぞつて立て

るだらうとわたしは思ふものは外部の他國人に對して吾々が紛争にあるときに訴ふところのもので、前者よりはるかに穩和なものです。

クレイニ阿斯 いかにも左様です。

アテーナイの客 然らばです、孰れを、つまり孰れの者に對する戦争を推奨して、以てその戰士を讚美し、他方の夫を難ぜられたのであるか。外部の者に對するものと見受けられる、兎もあれ貴下はかく詩篇の中に申されてゐる。敢へてげに血腥き煞戮を見ず、

將又敵手眞近く立ち邀ふ、

ことなき輩は、斷じて是を容さじ、と。従つて次にわたしどもは、かく申し上げられる「見受けまするに、テュルタイオスよ。貴下は實に異邦との外戦に當つて目覺しい者等をこそ最も推賞し給ふものである」とです。恐らく彼はさうだと言つて同意するでせうね。

クレイニ阿斯 無論ですね。

アテーナイの客 だがわたしどもに言はしむれば、それらの者は善ではありませんがそれより更にしかもはるかに善いのは最大の戦争に於て際立つて最善である者なのであります。それにわたし共は詩人を證人として持つてゐるのですよ、スイケリアのメガラメガラの詩人、テオグニステオグニスです、彼は申してゐます、

險難の紛擾にして忠なるの士は、

キュルノスキュルノスよ、金と銀とに比ふべき値あり

と。わたしどもに言はしますれば、誠にかういふ者は一層險難な戦争においてはさきの者よりもはるかに善い者となるのでありまして、概して正義と節制と識見とが勇氣に次いでその者に歸するだけ、勇氣そのものののみよりも、一層善いのです。なぜならば黨争におきましては全體スュンパサ、アレテ的な徳がなければ忠誠で節制ある者

となることは到底出来ないからです。ところがテュルタイオスの語つてゐます戦争におきましては頑強に守り且つ闘つて死することを喜ぶ者は傭兵の中に夥しく在りますけれども、その或る極めて少數の者を除いては、殆んどまるで大部分が向見すで不正で兇暴で至つて無見識なのです。して今わたしどもにとりまして右の理論は如何なる結果になるでありませうか、又そも／＼何を明らかにしようと欲してこれらの事を語るものでせうか。かうだといふことは瞭らかです、つまり當地の惟神の立法者にしても、またすべて少しでも價値ある者は、最大の徳を最も眼目として常に法律を立てるものに萬々外ならないといふことです。そして、テオグニスの所謂、恐怖に於ける忠誠が正にそれでありまして、之を人はまた究極的正義と名付けることが出来ませう。之に反しましてテュルタイオスが最も

賞讃いたしましたものは、成程立派なものではあるし又詩人により宜しきになつて頌へられてゐるのですが、併しそれにも拘らずそれは順序に於ては第四位にして價値あるものたることを得るのであると最も正當には言へるのです。

六

クレイニ阿斯 それでは、客人、わたしどもは吾々の立法者をはるかに低級な立法者どもの中に貶し去るものですよ。

アテーナイの客 わたしどもでは御座いませぬ、友よ、ではなくてわたしども自身をなのです、若しわたしどもがラケダイモーンや當地に於きます一切の法制をばリュクルゴスやミノースや戦争を特に眼目として立てたものだと思ふのでありますならばです

ね。

クレイニアス　しますると如何わたしどもは言ふべき
だつたので御座いますか。

アテナイの客　わたしの考へますするには、神人につ
いて論議する者が眞實な事と正しい事とを語る様にで
すよ、つまり彼は徳の一部分を、しかも夫も最も卑し
いものをではなく、徳全體^{ベキアッテ}を眼目として制定してゐた
のであつたといふことをですよ、そして又それらの諸
範疇に従つて法律を探究するやうにで、決して今人が
持出し來つて以て探究をなす範疇に従つてではなくで
すね。と申しますのは各人その用あるところのものを
立て來つて之を探究するのが當今だからです、例へば
或者は相續財産や嗣女に關する事項を、又他の者は暴
行に關する事項を、更に他の者達は他の無數のかゝる
事どもをといふ風にですね。だがわたしどもに言はし

631

むれば良く探究せんとする人々の法律に關する探究は
今わたしどもが始めた如くにあるべきものなのです。
でわたしは法律に關する解釋の企て方に於きましては
貴方に滿腔から賛成ですよ。何故なら徳といふことか
ら始めて、實に是が爲めにこそ法律を制定してゐたの
であつたと説かれるのは正確だからです。けれども彼
が一切を徳の一部に、しかもそれも最も些細なるもの
に歸して立法したと仰言る點ではですね、正確に言つ
てゐられるとはわたしにはさらに認められないのであ
りまして、その故によつてこそ今それに續く右の全論
述を申し上げて來たわけなのです。ではわたしは貴方
が更にどう釋き述べられ又わたし自ら承り度く思つて
ゐたのか、わたしから貴方に申し上げてよろしいでせ
うかしら。

クレイニアス　勿論ですとも。

アテーナイの客　かう申さるべきだつたのですよ、「客人よ、クレイターの法律は故なくして全へラス人間に格別に好評を博してゐるわけではないのであつて、それらを用ふる者を全く幸福ならしむる底の正當なものだからだ。といふのは凡ゆる善を提供するからである。然して善には二種ある、一は人間的なもの、他は神的なものである。然して神的なものに他方のものは依據してゐるのであり、且つ人がより大なる方を受けとるときはより小なるものを手に入れるのであつて、さうでなければ、兩者何れをも奪はれるものである。然してより小なるものとはその首位を占めるのが健康であり、美が第二で、第三は競走や其の他一切の肉體上の運動への力であり、第四は富にして盲目的なものでなく慧眼で、同時に識見に随ふ場合である。して之に對し神的な善の首位に立つ第一のものは、

アタナシス
識見であり、第二は理性と俱なる節制的精神状態であり、第三には之等が勇氣と混合したものから出て來る正義であり、第四は勇氣である。之等はすべて前者の前に本然上位せしめられてあるものであり、且つ殊に立法者によつてもしかく位せしめらるべきものである。然してその次に國民に對する諸々の命令が之等に目指すものなることを彼等に訓示すべきである。しかもその中人間的なるものは神的なものに、又神的なものは總べて理性といふ支配者に目指してゐることをも。而して國民相互に結び合ふ婚姻に關し、又その次には子供の出産と男子たると女子たるとを問はずその若年であるとき及び漸次年老ひて行つて老年に至る迄の育成とに於て名譽ある事と不名譽な事とを正確に掌るべく、彼等の一切の交際に於ける彼等の苦痛と快樂と凡ゆる種類の慾望と熱情とを尋ねて省察し且

つ監察して以て、法律そのものによつて正確に處罰し又賞すべきである。更に又憤怒に於てや、恐怖に於てや、又不平に由つて心に起る凡ゆる迷惑や、幸福時に於ける斯るものの凡ゆる回避や、又病氣とか戦争とか貧乏とか或は之等に反對のものから起つて人間に當面し來る凡ゆる出來事、斯るすべての事どもに於て夫々^bの事情につき良い事と然らざる事とを教へ且つ定めねばならない。然してその次に立法者は國民の取得と消費とをしかも如何なる方法が行はるゝかについて監視し、又彼等すべての相互間に於ける自由意思に依り又は自由意思に依らぬ結合及び之が解除をしかも如何なる方法で斯る事の夫々を相互間に行ふかについて、且つそれらの中に義しさがあるか又缺けてゐるかについて省察し、而して法の良き服従者には榮譽を頒へ、非服従者には規定の刑罰を科すべき要があるのであつて、

かくて遂に全統治體制の最後に到達したときには、死者の葬儀が夫々の者にどう如何なる仕方で行はるべきか又如何なる尊敬が之に拂はるべきかを觀るべきである。然しかく觀じ來つたならば、法律を制定する者は右一切の規定につき監守を設けるであらう、そしてその或者は識見を以て、又他の者は眞正なる所信を以て進むものであり、かくして理性が右の事ども一切を統括して節度と正義とに、そして富や名譽心にはではなく、従ふものたらしめるやうにするであらう^cといふことです。かうしたわけで、朋がたよ、わたしとし^dましては貴方がたが、ゼウスに依つて宣べられた法律やピュト^eのアポロンに依る夫や、ミノースやリクルゴスの制定した夫の中に右のもの一切が如何に内在してゐるものか、又如何に或體系―法律に關して專問的に經驗ある者にとりまして又習慣的に然る者に

どりましては把握せらるゝ明白なものです、然しその他の吾々如きには決して瞭らかではないのですが――を以て在るかを解明し盡して下さるのを望んでゐたのですし又今も猶ほさう欲してゐる次第なのです。

七

クレイニアス では、客人、次にはいかゞ述べべきなのですか。

アテーナイの客 わたしとしましては最初からもう一度吟味する必要があると存じます、わたしどもがやつて來ましたやうにですね、先づ第一に勇氣についての訓練を、次いで他の種類の徳を又更には他のものごと

検討して参りませう、若しお望みならばですが。そして第一のものを吟味したと同様に、之を模範と立てゝ他の事どもをもその様に語り合つて行路の勵ましを爲

すやうにいたしませう、そして引續きましては只今物語り來つた事が徳全體の方に目指すものなることを神若し許し給ひますれば證しいたしませう。

メギッロス 結 な御話です、して先づゼウスの讃
美者たる此のわたしどもの友を批判してみて下さい。

アテーナイの客 やつてみませう、そして貴方をもわたし自身をもです、話題は共通なのですから。そこで仰言つていただきたいのですが、會食と體育とが戦争の爲めに立法者によつて案出されたといふのでしたね。

メギッロス はあ。

アテーナイの客 して第三には又第四には。と申しますのは他の徳のまゝ部分と申しますかそれとも之を何と呼ぶべきであるにしましても、唯謂ふ所が明らかならばいいわけですが、それについてもですねこの様に列舉する要があるでせうからね。

メギッロス それで第三にはですね、わたしとしましては又ラケダイモーン人の誰にしまして申せるのですが、狩獵を案出したのですよ。

アテーナイの客 して第四のものを、又出来れば第五のものをも、論じてみたいものです。

メギッロス それで第四のものもなほわたしとしましては言つてみれるつもりです、之れは艱苦の忍耐に關してゐましてわたしどもの處では大に行はれてゐるところで御座います、つまり互に手を以てする闘技に於きましてや又多くの打撲をもつて人にいつといはず加へられることのある盜掠に於ける夫です。更には又クラフツマン隠密と名付けられるものもありまして忍耐の爲めの驚くべく苦しい業で、冬期といふのに裸足で歩行し露宿し又侍者なしに自分で自分の用を足しそして夜も日中も全國中をさまよひ歩くのです。更には又わた

しどもの處の裸體ギムナシイ競技に於きまして酷暑の力と闘ふ忍耐といふものは恐るべきものがあるので御座います、又此の外多くの事がありまして、人が之を一々算へ上げましては殆んど止まるところを知らぬ程に御座いますのですよ。

アテーナイの客 實によく御話し下さいました、ラケダイモーンの朋よ。だが勇氣をば、さて、何と定義したものでせうか。全く單純に恐怖と苦痛とに對する闘争であるに過ぎないのですか、それともまた欲望や快樂やまた、嚴格だと思はれる人々の魂をさへ臘の様にあらしめる恐るべき誘惑的な阿諛に對するものでもあるのですか。

メギッロス さうだと思ひます、それら全部に對するものです。

アテーナイの客 さうとしまして以前の論述を想起い

たしまするに、此の御方は或國家は自ら自己自身より一層の弱者であり又人でもさうだと仰言いました。實際左様でしたね、クレーニアスの朋よ。

クレーニアス え、全くさうです。

アテーナイの客 それでは苦痛に對しての弱者を、それとも快樂に對しての者をも亦惡人と申したものでせうか。

クレーニアス わたしの思ひまするには、むしろ快樂に對する者の方です。わたしども皆も恐らく此の快樂によつて打負かされる者をこそ苦痛によつて然る者よりもむしろ恥づべくも自己自身に敗れた者と言ふでせう。

アテーナイの客 ではゼウスの又ビュトールのアポローンの立法者は多分は、唯弓手のものに對してのみ抵抗し得て、右手の小綺麗な疊惑的なものに對しては無力

624

なる如き、偏頗な勇氣を法定したもののではないのですか、それとも双方に對するものをなのでせうか。

クレーニアス 双方に對するものだ。わたしは觀ますね。

アテーナイの客 それでは翻つて貴方がたの御兩國に、快樂を味はしめて之を避けず、丁度苦痛を避けなかつた如くにです。ね、却つてその眞只中に引き入れて、之に打ち勝つやうに強制しまた榮譽を以て得心せしむるやうな制度としてはどんなものが在るかにつきましてお話しすることにいたしませう。——で法律の内の何所に是と同じ事が快樂に關して規定されてありますでせうか。貴方がたの處で同じ人々をして艱苦に對しても快樂に對しても等しく勇敢で、打勝つべきものには打勝ち、自己自身に最も近い且つ最も險難なる敵に斷じて負をとらぬ者に成し遂せるものは何なのか仰言つ

ていたゞきたいのです。

メギッロス その點、客人、艱苦に對抗して定められた法律は多いと申し上げることが出来ましたと同じ様なわけには、快樂につきまして廣汎にまた明瞭に説くことはわたしには恐らく出来かねるのです。少々は恐らく出来るかも知れませんが。

クレイニ阿斯 實はわたし自身におきましてもクレイターの法律中に何等さうしたものを指摘することは御同様出来ますまい。

アテーナイの客 良い朋がたよ、それは何も不思議では御座いませんよ。だがそこでですね、わたしどもの中の誰かど夫々の國の法律について何か非難いたしまする場合、それも眞實と又同時に最善の事とを見出さうと欲しての上ならば、お互に氣六かくでなく柔しく受け容れ合ひたいものです。

クレイニ阿斯 アテーナイの客人、御尤もな御言葉でして、御従ひ申さねばなりません。

アテーナイの客 いかにも、クレイニ阿斯よ、左様なことは年配の士には相應しくはありませんね。

クレイニ阿斯 いかにもさうですよ。

アテーナイの客 それでは人がラコニアやクレイターの統治體制に對して評價しますところが正確か否かといふことは別の話でせう。が、そこで、多數の人々によつて言はれてゐる事を恐らくは貴方がた御兩人よりも寧ろわたしの方が論することが出来るでせう。と申しますのは、貴方がたの法律規定が中庸を得て設けられたものであるといたしますれば、又さうなのですが、就中最も立派な法律の一つは、その如何なるものが立派であるか又は立派でないかを年少者の何人も探究してはならないこと、總べては神々の制定せられたこと

ろとして立派な状態にあるのであると一聲に一つ口を以て擧つて共に唱ふべきであること、そして人が異論をなしても肯へて絶対に傾聴せざるべきことといふのですから、そして他面貴國の人の誰か年老ひた人が何か考ふる仔細あるときは、逆に年少者の一人もゐない場合に政務官や年配の人の前やかやうな論はなすべしといふのですからで御座います。

クレイニアス いや至極正鵠を得た御話ですよ、客人、それに右の事どもを立てた者の當時に於ける意思から遠く隔つてゐながら、今日貴方は宛も豫言者の如くに見事に推察され、しかも極めて眞實を語つてゐられるやうにわたしには思はれるのです。

アテーナイの客 ところで只今わたしどものところには年少者は居ないことですし、又わたしども自身老齡の故に之等の事についてわたしどもの間だけで語り合

つても何ら違反することはないことを立法者に依つて許されてゐるわけです。

クレイニアス それはさうですとも。そして吾々の法律を評されますに當りまして何事も假借なさいますやうに。何かよくない點を知るといふことは不名譽ではなく、却つて言はれた事を嫉妬でなしに善意で以て受け容れますると、それからの救になるものですから。

八

アテーナイの客 よう御座います。併しまた、力の及ぶ限り確實に検討しつくす迄は、それ迄は法律に評を加へることもなしに、むしろ疑問としつゝ申し上げたい。かういふわけからです、立法者はヘラス人中又、わたしどもの聞き知つてゐる蠻夷の中貴方がたのみに對して様々な最大の快樂や遊樂から隔つて之を味ふこ

どのないやうに命じましたが、之に對しまして苦痛と恐怖とに關しては、今しがた述べて來ました如く、彼はかう信じたものです、即ち若し人が子供の時から徹底的に之を回避するにすれば、その者が必然的な勞苦。

や恐怖や苦痛に直面するに至つた曉には、このやうなものの中で鍛鍊された者を回避するに至るであらうし又彼等に隸屬するに至るであらう、とですね。で、わたしの思ひまするには、之と同じ事を快樂に對しても亦同じ立法者は考慮して、自分自らにかく言ひきかすべきだつたのです、即ち吾々の國民が若し若い時から最大の快樂の經驗なしに育ち、そして快樂の中にあつて耐え忍ぶことに、また何等の恥づべき事を行はぬやうに強制せられることに備へられてゐないとするば、^b快樂に對する愛好心の故に彼等は恐怖に負ける者と同じ運命を受けるであらうし、之とは異なるが一層恥づべ

き仕方で、快樂の中にあつて耐え忍ぶ力ある者や快樂のよすがを自ら持つてゐるところの、往々全くの惡人たる者に隸屬するに至るであらうし、又一面には奴隸的根性を他面には自由精神を持つことにもなつて、單純に勇氣あり自由なる人と呼ばれるには値しなくなるであらう、とです。そこで今申しました事の或點は適切に論ぜられたものと貴方がたに思へるかどうか見ていただきたいのですが。

クレイニ阿斯 仰言になつた論旨からしますと如何にもさうだわたしどもには思へます。けれども是程の事柄につきまして直ちに輕々しく信じて了ふことはむしろ若い者のする事で心ない業として爲したくはありませんね。

アテーナイの客 が、クレイニ阿斯またラケダイモーンの朋よ、豫定しておきましたその次の點を検討する

ことにいたしますと——つまり勇氣に次いで節制^{ソーフロディテ}に就いて語らうといふのですが——之等の統治體制の中にどういふ特異點を、無原理で統治されてゐる者の夫に比しまして、見出すでせうか、今しがたの戰爭に關する場合の様子です。

636

メギッロス　なまやさしいことではありませんね。

併しながら惟ひますに會食と體育とは兩方を目的として美事に案出されたもののやうです。

アテーナイの客　朋がたよ、慥かに統治體制に關する事が實踐と理論とに於て等しく争ひ得なくあるといふことは困難でありませう。何故なら、宛も肉體に於てのやうにですね、或る一個の肉體に對して一つの處方^{レコメンド}を、しかもその場合この同じものが吾々の肉體を一面には害するものであり、他面には又益するものでもあるといふことの見られないやうなものを、定めること

は不可能であると考へられるからです。例へばその體^h育も會食も他の多くの點では今日國家を益してゐますが、黨争に向ふ危險があります——現にミレートスやポイオーチアやトゥリアやの青年共が證據ですよ——それに殊に此の制度は古くから規則として在る場合にはアフロディテの祭（戀愛）をめぐる自然的な快樂を、それも人間らしいもののみならず動物の夫をも破壊して了つてゐるやうに思へるのです。そしてこの點に就いては貴方がたの國々を初めとしてその他體育に最も没頭する凡ゆる國を人は非難することが出來ます。そしてこのやうな事を遊び事として考ふべきにせよ眞摯な事としてにせよ、生殖の爲めに結合に入り來る女性的及び男性の本性に對してはそれをめぐる快樂は自然的に許與されてゐるのでありますが、男性對男性又は女性對女性の夫は背自然的であり且つ最初の連中の

厚顔は快樂無抑制に因づいてゐると思はれるのです。

では吾々は皆クレターの人々をガニューメーデースに關する物語を造言したのは彼等であるとして誹議する^d

わけなのです。彼等にとりましては法律といふものはゼウスから生じたものと信ぜられてゐましたものから、この物語にしてもゼウスに附會し來つて、以て實に神に従つて此の快樂をも享樂するものだとしたのです。物語の事はさて置きまして、法律に就いて人が省察しますときはその考察は殆んど全部國家並に私的生活に於ての快樂と苦痛とに關するのです。何故なら之等二個の泉は自然によつて流るるがままにしてあるのでありまして、それから然るべき場所と時と分量とを以て水を引く者は幸福なのです、國家でも個人でも又凡べての生物でも等しくです。だが無智にしかも機宜を離れてしては生活は前者とは反對のものとなりま

せうからです。

九

メギッロス 御話しの趣は、客人、いかにも立派で

御座います。とは申しますものゝさてそれに對しまして一體何と申すべきかといひますと實はわたしども言ひ困るのですよ、尤もわたしとしましてはラケダイモーンの立法者が快樂を避くべきことを命じてゐるのは正當だと思へるのですけれども、そしてクノーツスの法律に就きましては此の御方が、若し御氣が向けばですが、辯護なさるで御座いませう。して人類中スバルタに最善のものが快樂に關する規定としては在るとわたしには思へます。と申しますのは人類が快樂しかも最大の―や恐怖やおよそ心無き業に墮する所由をなすものは、之を吾々の法律は國土全體から掃蕩いた

しましたのでして、地方に於きましても、都會に於きましても苟もスパルタ人の所管に係る限りの所には饗宴や之に隨伴して凡ゆる快樂を可能なる限り起す如き事どもを御覽になることはありますまいし、又誰でも酩酊して以て騒ぎ廻る者に對しては出遭頭に直ちに最も大の罰を加へない事はありませす、それに又ディオニュソス祭も口實となつてその者を解放し得るものではないのです、丁度わたしが貴方の御國で折々車中に見かけましたやうに、又タラスのわたしどもの植民地で都市全體がディオニュソス祭に酔つてゐるのを觀察いたしましたやうにはですな。ところがわたしどもの處ではかういふ事は決してないのですよ。

アテーナイの客 ラケダイモーンの朋よ、さういふ事が凡べて賞讃すべきものでありますのは、或る忍耐といふものが内に在る場合のことでありまして、之が弛

緩致しまするときは、却つて愚なものですよ。現にわたしどもの處の者は自己辯護として、貴方がたの處の婦人達の放逸さを摘示して、貴方を駁することです。で凡べてかやうな事に對しまして、それが、タラスに於きましてもわたしどもの處でも又貴方がたの處におきましてもです、間違つたものでなくして正當であるといふにつきましては唯だ一つの解答が與へられると思はれます。つまり自分の處の慣習でないものを見て驚く異國人に對して凡べての人は答へて申しますでせう、「異國の方よ、驚かれることはない。吾々にとつてはこれが法律なのです、然し貴方がたにとつては之等の事に關して恐らく異つたものがありませう」とですな。だが、親愛な人々よ、今わたしどもにとりましての論題は他の人間に關するのではなく、立法者自身の惡と善とに關するのです。就いては更に酩酊全般に

ついで一層多くを語ることにいたしませう。何故ならこの慣行は苟且のものではなく、凡庸の立法者のよく

解知する所ではないからです。してわたしの言ふところ

は一般に酒の飲用可なりや否やについてではなくして、

酩酊その事についてでありまして、スキュチア人や

ベルスリス人や、更にはカルケードーン人ケルト人

イペーリア人及びトラケー人——之等は總べて好戦

民族ですが——がやつてゐる如くにやるべきものか、

それとも貴方がたのやうにあるべきかといふことです。

即ち貴方がたは、御話の通りでは、全然慎んでゐられ

るに對し、スキュチア人やトラケー人は全く水を割

らぬ酒を用ひ、女も男もですよ、それに着物に之を振

掛けて、以て美しく且つ幸福な慣行を行ふものである

と認めて來てゐるのです。又ベルスリス人は貴方がた

の棄て去られましたその他諸々の奢侈をも熾んに行つ

てゐます。尤も右の者よりは一層秩序正しくはありますけれども。

メギッロス 大徳よ、わたしどもは武器を手に取り

持つてゐるときだつたら、その連中すべてを追ひまわ

してやりますよ。

アテーナイの客 良い友よ、さうは仰言るな。と申し

ますのは多くの遁走や追跡は根據不明のものでありま

したし又將來ともにさうあるでせうから、従つて制度

の良否に關しては、此の標準を以て明確なものとは言

ひ得ないのでありまして、却つて疑はしいものなので

すよ、戰鬪に於ける勝利と敗走がそれだと言つてはで

すね。何故ならばその場合強大國は弱小國と戰つて勝

つからです、現にスュラクーサイ人は、彼の地方の人

々の中最も善治の民であつたと考へられる、ロクリス

人を隸屬せしめてゐるし、又アテーナイ人はケイオス

人をさうしてゐます。このやうな事例は他にも無數に見出し得ますでせう。でまあ夫々の制度自體について語りましてわたしども自ら納得行くやうにすることに、勝利と敗北とは今のところ論外に置くことにいたしませう、そして斯々の事柄は良いことであり、斯々の事柄は良くないのだといふ事を語りませう。だが先づ之等の事の中行ふべき事と然らざる事とを如何に判斷すべきかといふことにつきまして、わたしから聞いていただきたいのです。

メギッロス　では如何にと仰言るのですか。

10

アテーナイの客　わたしの思ひまするに或制度を話題にとり上げて、しかも之を言下に直ちに非難したり賞讃したりしようと企てる人々は總べて、方法的に行つ

てゐるものでは斷じてなくして、宛も或者が、誰かゞ乾酪を良い食物であると賞めた場合に、之が效果をも使用法をも、即ち如何なる仕方でも如何なる人々に何と共に又如何なる状態でそしてその人々が如何なる状態にあるときに使用するかを究めずして、直ちに非難する場合と同じ事を爲してゐるものでありませう。同じ事を今わたしどもは談話に於て爲してゐるとわたしには思へるのです。なぜならば酪酏に就きまして唯ださう聞いただけで、直ちに或者は之を非難し、他の者は賞讃するからです、しかも至極奇妙な風にですね。即ち双方夫々證據や讃美者を引合に出して來て讃へ、しかもその一方は、自分等が多くの證據を持つてゐる事實が或事柄の權威あるものたることを意味すると考へ、他方は、それをやらない者が鬭つて勝つのを見るといふ事實がさうだといえます。ところがこの點も更に

わたしどもにしてみれば疑へるのです。で若し他の法制の夫々についてもこのやうな風に吟味して行くとしますれば、わたしにしては氣持に合ひ得ないですよ。でわたしは、わたしに當然と認められる、他の仕方では本題、即ち醗酲に就きまして語りたいと存じます、その際出来れば總べてこのやうな事柄に關する正しい方法といふものをわたしどもに明示することをも試みつくです、何故なら彌が上にも無數の民族が之等の點について異論をはさんで貴方がた御兩國と議論で戦ふかも知れませんから。

メギッロス いかにも實際、若しかやうな事柄につきまして何か正確な見方を得るのでしたら、承るに吝かなわけには参りません。

アテーナイの客 どうかういふ風に見て行つてみませう。どうでせう、若し或者が山羊の飼育を、又この動物自

體を以て立派な財物であるとして、賞讃し、他の或者は之に反して山羊が羊飼を離れて耕地で草を食み害を爲すのを見て痛罵し、また凡べて指揮者なく又は悪い指揮者と共にある家畜を見て誹るとしますれば、かういふ人の非難をわたしどもは一體健全な非難をしたものと信じ得ませうか如何でせうね。

メギッロス いゝえどうしまして。

アテーナイの客 ではわたしどもにとりましては船での有能な指揮者たる者は唯航海の知識のみを持つてさへ居ればいいので、船酔しようとしまいとに拘らないのですか、それともどう申したものでせうか。

メギッロス 若しも技術の外に御話しの様なその疾患を持つてゐるとしますれば、斷じてさうではありませんね。

アテーナイの客 して戦陣の指揮官は如何。戦鬪の知

識を持つてさへるれば、指揮する能力ある者なのですから、假令怯懦であるため危険に際して恐怖の酔に酔ひ痴れるにしてもですね。

メギッロス いいえどうしまして。

アテーナイの客 して逆に技術も持たず且つ又怯懦であるといえますと。

メギッロス まるで取柄ない奴で、しかも斷じて男子をでなくせいぐ、或種の女共を指揮する者だと仰言るわけですね。

アテーナイの客 して本性上指揮者在ることを要しそ。

の下にあつてのみ益あるものたる何等かの結合の賞讃者とか非難者などですとね、しかもそれが指揮者の下に正しく結合をなしてゐるのを決して見たのではなくして、常に指揮者なしであるか又は悪い指揮者の下に集合してゐるものかを見た者ですと如何でせうね。そ

の場合わたしどもは一體かやうな觀察者がかやうな結合の何か有用な點を非難したり或は賞讃したりするであらうと考へるでせうか。

メギッロス どうして出来ませう、そのやうな結合の一つとして妥當な状態のものを決して見もせず、又それと一緒に在つた事もなくしてはです。

アテーナイの客 で一寸御待ち下さい。わたしどもは飲み仲間と酒盛を以て多くの結合中の一種の社會であるを定義出来ませうね。

メギッロス 大いに出来ませうとも。

アテーナイの客 ではですね、それが妥當な状態にあるのを誰か會つて既に觀察したことがありませうか。して御兩人には決して全くないと御答へになることは容易でせう——何故ならこの事は貴方がたの御國風でもなく、また御慣例でもありませんのですから——だ

がわたしはその多くのものに而も多くの場所で出遭つて居り加ふるに言はゞその總べてを探りつくしてゐるのです、そして殆んど全部が一つとして妥當なのを見。

もしなければ聞きもしてゐないのでして、所によつては小さなそして少數の部分におきましては兎も角、多くの點では言はゞ全く缺陷だらけだつたのです。

クレイニアス それはまたどういふのですか、客人。

もつとはつきりしたところを御話し下さい。實はわたしどもは、お言葉の通りに、さういふものには無經驗で御座いますし、出遭ひましたところで恐らくは直ぐにそれらのものに於ける妥當な點とさうでない點とを知り得ないでせうから。

640

アアーナイの客 仰言る通りかも知れません。ですがわたしからお述べしますからそれで理解するやうにしてみて下さい。さて凡べての集會や結合の内にはです

ね、その事業の何たるかを問はず、夫々に凡ゆる場合に於て指揮者が在るといふことは正しいといふ、この點は御理解になつてゐますね。

クレイニアス いかにも確かに。

アアーナイの客 尙は又只今わたしどもは戰ふときは指揮者は勇敢であらねばならないと申しました。

クレイニアス いかにも。

アアーナイの客 眞に勇敢な人は怯懦な者よりも恐怖によつて擾されることが尠いものです。

クレイニアス それはさうですとも。

アアーナイの客 して若し何ものをも絶對に怖れず又擾されもせぬ將軍が陣頭に立つ方途が何かあつたしますれば、わたしどもは凡ゆる方法を講じて之を行ひはしなかつたでせうか。

クレクレイ 斷乎として。

アテーナイの客 然し實は今わたしどもの語つてゐるのは戰時に敵人對敵人との關係に於て戰陣を指揮すべき者についてではなく、平時に於て朋友と朋友との結合すべき友好關係の夫です。

クレイニアス まさしく。

アテーナイの客 ところが實はこのやうな會合は、それが酩酊を伴ふに至りますと、騒なしにあるものではありません。さうでせう。

クレイニアス いかにもありません、まるで逆だと存じます。

アテーナイの客 さうしますとそれらにも第一に指揮者が必要ですね。

クレイニアス 無論です、何事におきましてよりもです。

アテーナイの客 では擾さるゝことのない、若し出来

ればですが、このやうな指揮者が配備せらるべきですか如何でせう。

クレイニアス いかにもさうですとも。

アテーナイの客 尙ほ又彼は、惟ひまするに、會合に關して見識ある者でなければなりません。何故ならば彼は人々に於ける現在の友愛の保護者であり、且つ又之がその場合の會合によつて尙ほ一層ゆたかになるやうに心掛くべき者なのでありますからです。

クレイニアス 至極御もつともです。

アテーナイの客 それではですね酒を慎しみ且つ賢明な人を酒飲む人々の指揮者として立つべきで、その逆であつてはならないわけですね。何故なら酒飲む人々の指揮者が酒を飲むか又は若くして賢明でない場合に、若し何か大きい禍惡が行はれずにすんだとすれば、それは非常な僥倖に依るものでせうからです。

クレイニアス 全くもつてさうですね。

一

アテーナイの客 しますると人が諸國內にある之等の
會合で可能なる限り妥當な状態にあるものを諍るので
したら、而も事そのものに攻撃の矢を向けるのであり
ますれば、蓋し恐らくは適確に誹譏することが出来る
でありませう。然し若し人が極端に誤り行はれてゐる
ものを見て本制度を罵倒するものでしたら、第一に明
らかなことは、彼はその事自身が妥當な状態にないの
だといふことを認識してゐないことであり、次には、
この様な仕方では何事でも、それが酒を慎む首長や指
揮者なしに行はれるときは、陋惡に見えるといふこと
です。かうは御考へになりませんか、酒を飲む舵手と
かすべて凡ゆる種類の指揮者は舟にせよ、車にせよ、
軍陣にせよ、更には又彼によつて舵とられる物が凡そ
何たるにせよ、之を一切顛覆するのであるとすね。

641

クレイニアス それは全く眞實なお話ですよ、客人。

だが次の點でわたしどもにお説明下さい、若しすね
此の飲酒に關する慣例が妥當な状態にあるといたしま
すれば、それはそも／＼どんな福利を吾々に爲すので
ありませうか。例へば只今語りました如き軍陣が妥當
な司令を得ますならば、服従者には戦争の勝利が生れ
るでありませう、これは些細ならぬ福利です、又他の
事共に於きましても同様です。然し酒宴が妥當に指導
されまとき、それからどういふ大なるものが個人又
は國家にとつて生ずるのでありませうか。

アテーナイの客 して如何でせうね、唯一個の兒童が
又は唯一個の歌踊團が方法的に指導されるとき、それ
からどういふ大なるものが國家にとつて生ずると言へ

るでせうか。實際それをかういふ風に質問されますと、一個の場合からは小さな或る利益が國家にとつて生じ得ると言ふことが出來ます。又若し被教育者の教育が國家を利すること如何に大なるものがあるかと一般的に問はれるのでありますれば、かく申すことは困難ではありません、即ち善く教育されるれば有爲の人に成り得るものであり、さういふ人物に成れば他の事柄で立派に行動すると共に、更には又敵と戦つて勝ち得るものもある、とです。それで教育は勝利をも齎すわけですが、然し勝利は往々無教育を齎することがあります。何故なら戦勝に由り一層倨傲となつた多くの者は倨傲の故に他の無數の惡に滿されるものでして、教育は決して兩虎相斃^{カドモイア}的になつた事が無いのに對して、多くの勝利はその人々にとりさうしたものに過去に於てなつたものですし又さうあるでせうからです。

クレイニアス わたしどもには貴方は、友よ、酒中の共同銷暇は、若し妥當に行はるれば、教育の大局に及ぶものであると仰言つてゐるやうに思はれるのですが。

アテナイの客 さうなのですよ。

クレイニアス では次に今仰言つた點が眞理であることを御説明出來ますでせうか。

アテナイの客 眞理といふ點は、朋よ、つまり以上の事がさうであると確言いたしますことは、多くの人々の異論があることゝて、神に屬することです。けれども若し如何にわたしには見えるかを述べしといふのでしたら、何も厭ふ事は御座いけません、わたしどもは今法律と統治體制とに關する論議を爲す迄に論じつめて來てゐるのですから。

クレイニアス 正にその點をこそわたしどもは試みてゐるのです、即ち今疑問となつてゐる事柄につきまし。

て貴方の御考への程を了解することですね。

アテーナイの客 左様要はそのやうにすることにして、貴方がたとしては理解なさるやうに又わたしとしてはどうとも試みて解明するやうに、傾倒することですね、論旨をです。だが先づ次の點をわたしから聽いていただき度いのです。全ヘラスの人はわたしどもの國を以

て議論好きで多辯家であるを受けとり、之に對しラケダイモンとクレーターとを以て、一方は寡言であり、他方は多辯よりむしろ心裕けさを尙んで來てゐるとい

642

たします。で實は、酩酊など、些細な事柄に就きまして冗長な論議を展開いたしますと、わたしが些事について多言を弄するの感を貴方がたに起しはしないかと察する次第です。ところが此の事項の本性に合する正論は最も正確な音樂論なしには決して論旨に明確さと適切さを持ち來すことは出來ませんし、又音樂論も

更に教育論全般なしには決して出來ないので。ところが之等の點は全く數多の言葉を要するところです。それでどうしたものか考へてみて下さい——之等の點を現在のところ斷念して、法律に關する何か他の論題に移つたものかどうかですね。

メギッロス アテーナイの客人、貴方はわたしどもの家庭が幸ひ貴方がたの御國の特惠外國人であることを恐らくは御存じないのです。して恐らくすべての子供達にとりましてでもせうが、或る國の特惠外國人であると言ひ聞されましたときは、その國に對しまして、自分の國に次ぐ第二の祖國として、或る好意が夙に若干年の頃からしてわたしども特惠外國人の各々の内に入り來るものなのです。そして殊に今わたしに於きまして之と同じ事であつたのです。現にラケダイモン人がアテーナイ人を何事かで誹つたり讃めたりするこ

とでもあります、子供達から聞くのですよ、「おいメ
ギッロ、君等の國はね、僕等に良くない事を——又
は良い事を——やつたんだぜ」と言つたものですが
——でかう言ふのを聞きますとすぐにですね、それに
對し、御國を惡口にのぼす者達に對してですね、いつ
も貴方がたの爲めに闘ひもしまして、全くの好意を御
寄せしたものです、又今のわたしは貴方がたの語調は
嬉しいもので御座いますし、それにですね、アテーナ
イ人で苟くも有爲である程の人といふものはまたとり
わけてさういふ風であるとか多くの人々に言はれてゐま
すが、これは至言だと思へるのですよ。なぜなら彼等
獨り強制なしに自然に、天賦によつて本當に、何等つ
くらずして有爲であるからです。それで少くともわた
しに關します限り安心して御氣に召すだけどれ程の事
でも御話し下さつていいのですよ。

クレイニ阿斯 尙ほ又、客人、わたしの方の話も御聽
きになり御分り下さつて、安心して御望みだけの事を
御話し下さい。と申しますのは貴方も恐らく當地で聞
かれましたでせうが、エビメニデースは神的な人物で
したが、彼はわたしどもの家の者であつたのですよ、
そしてペルシス人よりも十年前に貴方がたの處に神
の託宜に従つてやつて参りまして、神の指定された或
る犠牲を奉獻しました、そして殊にはペルシス人の
遠征をアテーナイ人に警告しまして、彼等は十年は來
寇しないであらうが、やつて來た場合には、その期待
してゐた事は一つ爲すことなく、しかもその加ふる
ところより多くの損害を蒙つて、退去するであらうと
申しました。それで當時のことですよ、わたしどもの
祖先が貴方がたと友好關係に入りましたのはですね、
そしてそれ以來ずっとわたし及びわたしどもの家族の

者達は貴方がたに對して好意を持つてゐるのです。

643

アテーナイの客 さうしますると貴方がたの方では聽

くべきかをわたしから申し上げますから、申し上げた
點が御心に合ふかどうかを見て下さい。

かされる心構へが、察しまするに、御出來になつてゐる

クレイニアス 仰言つていただきませうか。

様ですね。でわたしの方としましては意圖といふ點の

二

心構へは出來てゐますが、能力といふ點では全く容易

ではありません、併し乍らやつて見ないことにはなり

アテーナイの客 では申しませう、してわたしをして

ません。それで本題に向ひますには先づ教育とは一體

言はしめますれば何事にまれ有爲たらんと欲する人は

何であるか如何なる意義を持つものであるかを定義い

その事柄を夙に子供の時から心掛くべきもののなのであ

たしませう。何故ならわたしどもの言ふところでは現

ります、戯れにも眞劍にもその事項に屬する凡ゆる點

在わたしどもによつて企てられてゐる論説は、最後に

に於てですね。例へば有爲の農夫か又は何か建築家に

酒神に迄達するのに、この點を通つて行くべきもので

でも成らうとする者は、一方は或玩具の建物を建て、

ありますからです。

クレイニアス まつたく、では、貴方に快かりさへし

之に對し他方は耕作して、遊ぶことが肝要でして、又
各々に對し、眞物の模型である小さな道具を彼等の各

ますれば、さういたすことにしませう。

養育者は備へてやらねばなりません、そして殊には又

アテーナイの客 それでは教育とは一體何であると説

豫め學んでおく必要な限りの知識は豫め學んでおかね

ばなりません、例へば大工は測量したり定規を使ったりすることを又軍人は馬に乗つたりその他さういふ事を爲て遊ぶといふやうにですね、そして遊育を通じて子供達の快樂や嗜好を、成年に達したときに彼等自らがあるべき方向に、仕向けて行くやうに試むべきものなのです。でわたしどもに言はしむれば教育の本義は、遊ぶ者の心情を、彼が成人になつたときに仕事の上での技倆からいつて完全な者となるべき、その事柄に對する愛に向つて能ふ限り導いて行く所の、正しい育成であります。では少くもこれ迄のところで、申上げた事が貴方がたの御心に合ふかどうか、申しました通り、見ていただきたい。

クレイニアス　いかにも合ひます。

アテーナイの客　ところでわたしどもが教育であるとするところのものが無限定のままであつてはなりま

プラトーン「法律論」

せん。と申しますのは今日ですね夫々の人の育ちを誹謗したり或は賞讃したりする場合、吾々は吾々の或者は教養ある者であり、他の者は無教育者であると稱し、時としましては小賣店や船頭や其他さういつた業について大いに教育された人々の才知にも及ぶことがあるからです。だが實は、惟ふに、之等のものを以て教育であると思ふのではなくして、幼年より徳性の爲めにされる教育、即ち義を以て支配し又支配されることを知る完全なる國民たらんとするの大志あり熱情ある者たらしむるものを以て然りとしてこそ今のこの議論は成立し得るのです。わたしの見るところでは、本議論は此の訓育を區別しまして、そのみを今教育と呼ぼうと欲し得るものでして、之に反し財物に向ふものや何か體力とか、その他理性と正義のない才知を目的とするものは俗惡卑屈で全然教育と稱されるには値し

ないものです。してわたしどもは何も名稱について自

ら論争することはいたしますまい、そして只今の論旨

はわたしども同じ意見だとしておきませう、即ち正し

く教育された者は有爲の人物といはれる程の者に成る

ものであり、又實に教育こそは至徳の士に加はり来る

最も甘美なるものの第一のものとして、之を尊重しな

いことなどあつては決してならないといふ事です。そ

して若し萬一それが誤つた方向に進む場合、然し矯正

することが可能であるならば、生涯を通じ力の及ぶ限

り萬事をつくして常にさう努めねばならないのです。

クレイニアス まさしく、で御話の趣はわたしども同

感なのです。

アテーナイの客 尙は又前々からわたしどもは自己を

支配し得る者は有爲の人であるが、さうでない者は悪

い者であるといふ點について同感でした。

クレイニアス まさしく仰言の通りです。

アテーナイの客 それではその點をもくわたしども

の言はんとするところは何なのか。なほはつきりと再

考いたしませう。ついでには比喩に依つてかうした事を

貴方がたに明らかにすることがわたしにどうやら出來

るものならそれをどうぞ承知して下さい。

クレイニアス ひとつ御話し下さい。

一三

アテーナイの客 そこでわたしどもは吾々各自といふ

ものを一個體として定立いたしますか。

クレイニアス はい。

アテーナイの客 ところで自我内部には二個の相反す

る無知な助言者を持つてゐますね、わたしどもが快樂

と苦痛と呼ぶものです。

クレイニアス 左様です。

アテーナイの客 ところが之等兩者に並んでまた將來の憶見といふものを持つてゐまして、その共通の名稱が期待であります、又各個のものとしては、苦痛に對する期待が恐怖で、その反對のものに對する夫が安心であります。然して之等總べての上にその何れが一體^d優れ又は劣つたものかの理辨^{ロギクセス}がありまして、之が國家の共通の信條^{ドクサ}となつたとき法律と名付けられるのです。クレイニアス わたしは實は辛うじてどうやら躰いて參つてゐるのですよ、が躰いて參いてゐるものとして次を御話し下さい。

メギッロス わたしにもそれと同じ憾みが内にあるのですよ。

アテーナイの客 でこれらの點につきましてかういふ風に考へて行つてみませう。わたしどもは吾々生物の

プラトーン「法律論」

各々が神の傀儡であると思ひますでせう、彼等の玩具としましてにせよ又或る眞面目さに關聯したものとしましてにせよです。この點は實はわたし共の關知するかぎりではありませんからね。然し次の點はわたしどもの知つてゐるところです、即ち右の諸々の心緒は吾々の内に宛も紐や何か絲などの如きものとして内在しまして吾々を曳つぱり、しかも互に反對のものとして引き合つて吾々をして反對の行動に向はしめるのでして、正にこの點で分たれて善と惡とが横はるのであるといふことです。何故なら條理の語るところによりますれば各人は諸々の導引力の中の唯一つのものに常に隨順してけつしてそのものから離れることなく、他の諸々の紐に拮抗すべきであるといふのですからです。然して右のものは理辨といふ黄金の聖なる手綱であつて、國家にしましては共通法と呼ばれるものです、之

に對しその他のものは固くて鐵の如くであり、又それが黄金なるが故に柔かいのに對し、他のものは凡ゆる類ひのものに似てゐるのです。で最善の手綱たる法律の夫に常に協力すべきであるのです。何故なら理辨は立派である他面には、柔和でありまして強力的ではありませんが故に、その手綱を支持する者を必要とするからです、わたしどもの内なる黄金族が他の諸族に打ち勝ち得るやうですね。そして實にこのやうにしてこそ吾々が傀儡であるとの道話は生かされてあり得るでありませうし、又自己自身よりも強くあり又は弱くあるといふ事が何を意味するかといふこと、及び個人と國家とが、一方は之等の導引力に關する眞實の條理を自己の内に會得して、之に隨順して生きべきであり、國家は或神々からか又は之等の事を知つてゐる人から條理を受けとつて、法律として立てゝ以て、自國自身並

びに他の諸國家に對する交際をなすべきであるといふことが幾らか一層明白になるであります。かくしまして殊に又惡と善ともわたしどもにとりまして一層はつきりと區別されたものとなり得るでせう。そしてそれが瞭然となりますと、教育もその他の制度も恐らくは一層明確となりますでせうし、殊には又酒中の鎖暇も、之は無價値な事について極めて冗長な餘計の談議が語られたものと信じられるかも知れなかつたものですが、然し多分恐らく長談議に値しないものではないと認められるでせう。

クレイニウス よい御説です、では今の鎖暇に値するほどの事どもはやつてのけることにいたしませう。

一四

アテーナイの客 では仰言つてみて下さい。わたしど

もがこの傀儡に酩酊をもつて來るとしますと、それを一體どんなものにしてふことでせうか。

クレイニアス でも何を目的としてそれを御訊ねになるのですか。

アテーナイの客 まだ何をといふわけではありませんのでして、一般にこれに加はるとどういふ事が起るに至るかといふのです。だが更にはつきりとわたしの意味するところを説明してみませう。つまり次の事を御訊ねしてゐるのですよ。そもそも酒の飲用は快樂や苦痛や憤怒や愛情を一層強烈なものにし向けるものであるかといふのです。

クレイニアス 大いにさうです。

アテーナイの客 して更に知覺や記憶や所信や識見や。は如何ですか。同様に強化しますか、それとも之等のものは、或人が酩酊に飽滿してゐる場合には、その者

を全く離脱するものでありますか。

クレイニアス はい、全く離脱しますよ。

アテーナイの客 しまするとその者が稚い子供であつた當時に於けると同じことに、つまり精神狀態に、たち至るわけですね。

クレイニアス 無論です。

アテーナイの客 でその場合その者は自己自身を律する者では少しもあり得ますまい。

クレイニアス 少しも。

アテーナイの客 では、わたしどもに言はしむれば、最も陋劣な者ですね、さういふ人は。

クレイニアス 大いにさうです。

アテーナイの客 すると、惟ひまするに、獨り老人のみが二度目の小兒になるのではなくして、酩酊者もさうなわけです。

クレイニアス 至極尤もお言葉ですよ、客人。

アテーナイの客 この制度を味ふべきであつて能ふ限り全力をつくして回避してはならないとわたしどもに得心させることを企圖するやうな何らかの論説がありますでせうか。

クレイニアス あるらしいですね。少くとも貴方は左様主張なさつてゐますし又今さつきも御説明下さる御心構へでありませんか。

アテーナイの客 誠に御記憶の通りです。實際今もその心構へでゐるのです、御兩人が切に聴きたく思ふと仰言つた以上はですね。

クレイニアス どうして承はらぬことが御座いませう、たとへですれ他の事はさて置きましたが、人間が往々進んで全くの墮落の中に身を投げ入るべきであるなどといふ、不思議な事柄のためだけにでも

です。

アテーナイの客 精神の話ですね。

クレイニアス はい。

アテーナイの客 して如何でせう、肉體のですね、友よ、劣悪さや、瘦細りや、畸形や羸弱に、かういふ状態に人が往々進んで立ち至るとすればわたしどもは不思議に思ふでせうか。

クレイニアス 如何にも思ひますとも。

アテーナイの客 では如何でせう、服藥の爲めに自ら醫者のところに行く者は、永久にさういふ状態にあることにでもなれば、生きることを望まなくなるやうな、さういふ肉體をやがて間もなくしかも長時日に亘つて持つことになるであらうといふ事を知らないでわたしどもは考へますか。それとも道場での業に行く者は當座は無力になることをわたしどもは存じてはゐません

か。

クレイニアス それは充分存じてゐますよ。

アテーナイの客 そして後の福利の爲めに進んで通ふのだといふこともですね。

クレイニアス 確かに。

アテーナイの客 それでは他の諸々の制度につきましても同様の事を考ふべきですね。

クレイニアス まつたのです。

アテーナイの客 すると酒盃をめぐつての銷暇につきましても同様に考ふべきです、若しかういふ事に於ても左様考へることが妥當であり得るならばですね。

クレイニアス 如何にもさうです。

アテーナイの客 するさわたしどもにとりましてその持つ利益が肉體に關する場合の夫に少しも劣らぬ事が示されるとしますれば、實に當初にあつては肉體的訓

練に勝つてゐるわけです、一方が艱苦を伴つてあるに對して、他方はさうでないといふ點ですね。

クレイニアス 御尤もな御話です、だが何かさうしたものをその中に觀取することが出来るのでしょうかわたしは不思議に思ふでせうよ。

アテーナイの客 正にその點こそ今、惟ひまするに、わたしどもが當に考察を試みなければならぬ所です。してわたしに仰言つて下さい、わたしどもは二個の殆んど反對の種類の恐怖を認めることが出来ませうか。

クレイニアス でどんなものでせうか。

アテーナイの客 かういふものですよ、一方ではわたしどもは害惡を、發生するだらうと豫想して、怖れま

す。

クレイニアス はい。

アテーナイの客 他方では屢々思惑といふものを、即

ち何か善くない事柄を行つたり言つたりする場合悪人と思はれるだらうと信じて、怖れます。そして殊にこの恐怖を少くもわたしどもは、又惟ふにすべての人も、廉恥と呼ぶのです。

クレイニアス いかにも。

アテナイの客 實に之等二個の恐怖をわたしは意味したのです。そしてその中後者は一面艱苦その他の恐怖に對抗し、他面最大最強の快樂に對抗するものなのです。

クレイニアス 至極尤もな御話です。

アテナイの客 そこで立法者にしまして、又凡べて少しでも價值ある者は、此の恐怖を最大の尊敬を以て捧持し、且つ羞恥心と呼んで、之に反對の厚顔を無羞恥と名づけしかも凡ゆる私的生活や公的生活に於ける最大の惡であると認めてはゐませんか。

クレイニアス まさしく御話の通りです。

アテナイの客 それでは此の恐怖こそは他の多くの、しかも重大なる事に際し吾々を救ふものであり、又戰爭に於ての勝利と安全とをこれ程にすぐれて吾々にもたらずものは何等一つが一つとしてありませんね。何故ならば實は勝利をもたらずものに二つありまして、一は敵に對しての豪膽であり、他は友に對しての醜い恥辱に關する恐怖でありますからです。

クレイニアス 左様です。

アテナイの客 すると吾々各々は恐れざる者であると共に恐れる者でなければならぬわけです。夫々が、何の爲めかといふことは、わたしどもの語つた所です。

クレイニアス まつたくさうです。

アテナイの客 そして又わたしどもが各人を多くの如何なる恐怖をも恐れぬ者たらしめようと欲するとき

には、その者を法律を以て恐怖の中に導き來つて、そのやうな者に致すのです。

クレイニアス さう見えます。

アテナイの客 だが或者を正義を以て恐れる者たらしむることを企てる場合は如何でせうか。わたしどもはその者を破廉恥と取組ませて鍛ひ上げ以て彼自身の快樂と闘ひ抜いて勝利を收めしむべきではありませんすまいか。それとも彼自身の内なる怯懦に抗爭してそれに打勝ちかくして勇氣に於て完全なものとなるべきでありませうか。かやうな闘ひに確かに經驗もなく鍛鍊されてもゐない者はどういふ人であつても徳に於て自性の半ばにも達しないでありませう。さすれば破廉恥を爲し不正を爲すやうに仕向ける多くの快樂と欲情とに對して理論と實踐と技術とを以て且つ遊事に於ても眞摯な事に於ても闘ひ抜いて打勝つことなしに、却つて

すべてかやうな事どもを忍苦したことの無い者が完全に克己的な者となるでありませうか。

クレイニアス いゝえ、それには道理らしい道理もあり得ませんね。

一五

アテナイの客 では如何でせうか。恐怖劑を人間に與へた神様が誰かありませうか、それを人が服用することを欲すること多量なだけ、それだけ益々各服用毎に自らが不幸であると考へるやうになり、自己に現前する事や將に起り來らんとする事全部を恐怖し、果ては人間の中最も勇敢な人も全く恐怖に陥るが、然し曉めて藥效から解放されるといつでも再び己れに歸るといふ如きものをです。

クレイニアス して、客人、何かさういつた藥が人類

の間にあつたと言へるのですか。

アテーナイの客 いや何も。然し假に何處かにあつ

たとしますればです、それは立法者にとつて勇氣の爲めに有用なものだらうといつたものでせうか。この點について例へば次の様に彼に論じ掛けることがしかも大いに出来ますでせう、さて、立法者よ、貴下がクレイテに對してにせよ何れの國に對してにせよ立法なさるとき、何より先づ國民の勇氣と怯懦とに關する試金石を把り持ち得ることをそも／＼喜ばれるでありますか、とですな。

クレイニ阿斯 恐らくは明らかに皆さうだと申すことでせう。

アテーナイの客 して如何でせう、安全性をもつてゐて大きい危険のないものをですかそれとも反對の性質をもつたものをですか。

クレイニ阿斯 その點もつまり安全性をもつたものなどは皆同感するところでせう。

アテーナイの客 して貴下は彼等を恐怖の中に導き込んで惑亂の中に於て試練するのに之を使用し、以て、激勵したり訓戒したり、榮譽を與へたり、他面、凡ゆる點に於て貴下に服しない者は何人たるを問はず、之を辱かしめて、恐れなき者となるやう強制されるのでありませうか。そして立派に男らしく訓練を受けた者をば處罰せずに解放し、まづければ、刑罰を科せられますか。それとも全然御使用にはなりませんか、その藥劑には他の難すべき點はないのにですな。

クレイニ阿斯 いやどうして使用しないことがあります、客人。

アテーナイの客 兎も角この修練法は、友よ、今日在る事どもに比ふれば一個人にも少數の者にも又何時で

も人の欲する程の人数にも適用容易たといふ點で驚くべきものたり得るのです。そして一方には人が獨り孤獨に於て、廉恥心を面前にしまして、立派な状態になる迄は人目にかかるべきでないと思ひて、かやうにして恐怖に對して自ら修練し得るのでありまして、無數の煩事を避けて藥劑のみを備へてさへ居ればまづ正當なやり方であり得るのです、さうしてもよし又他方、人が本性や習練で備へが出来てゐると自ら信ずる場合には多くの酒飲仲間と共にあつて自ら修練し、藥劑に因る必然的變化の場合に之を超越し征服して、以て何一事についても醜態にひどく陥ることもなく又徳性に依つて自ら惡化しない様にする程の力量を示すことを躊躇せず、たゞ最後の一杯に到つては、此の藥劑によるすべての人々の潰敗を自ら戒懼して、それに達する前に退くといふのもよいわけなのです。

クレイニ阿斯 はあ。實際、客人、そのやうな人もさういふ風に行ひますれば節制心のある人でせう。

アテーナイの客 で再び立法者に對してわたしどもはかう申しませう。よろしい、立法者よ、で大體に於てかやうな恐怖藥を神が人間に與へたのでもなければ又吾々が自ら工夫したのでもないわけです——魔法使を同席にして論じてはゐないのでありますから——、だが無怖心や又安心すべからざる事をも過度に又は不當に安心することを齎らす藥劑がありますか、それともどう言つたらよいのですか、とですね。

クレイニ阿斯 在ると、多分は申すことでせう、酒を名指しましてとす。

アテーナイの客 してそれは只今述べて來たものとは逆ではありませんか。人が酒を飲みますとその人を直ぐに先づ従前の自己よりも一層優しい者たらしめ、且

つその多くを喫するだけ、それだけ裕かな數々の良い、期待や主觀的な力量やに滿されるやうにするものです。そして終にはかやうな人はまるで賢人であるかの如く全くの能辯と奔放さと、又全くの無恐怖に滿ち、その結果どんな事でも憚りなく言ひもし、又同様に行ひもするものです。誰でも之等の點ではわたしどもに、思ふに、同意するであらませう。

クレイニアス 無論です。

一五

アテーナイの客 そこで次の事を想起いたしませう、即ちわたしどもは吾々の心の中に二つのものを培はねばならないと申したことです、その一つはいかにもし、吾々は最も安心してあるべしといふこと、他はその逆で吾々は最も恐るゝものたるべしといふことです。

クレイニアス つまり羞恥に屬する事と仰言つたものです。ね、さう思つてゐるのですが。

アテーナイの客 よく憶えてゐられますね。して勇氣と無恐怖とは恐怖の中で習練せらるべきものであります以上、考察すべきことはその逆のものはそも／＼逆の事情の中で培はるべきものであらうかどうかといふことです。

クレイニアス さうでせうね恐らく。

アテーナイの客 すると、吾々は或る事情を稟けましておのづから異常に自負的になり厚顔になるに至つて來てゐますが、さういふ事情に於きましてですね、無恥であつたり厚顔滿々であつたりすることの最もない様に、却つていつでも何事によらず或る恥づべき事を敢へて言つたり忍容したり又は行つたりすることに對して懼れる者であるやうに心することが、思ふに、肝

要でありませう。

クレイニアス 恐らくは。

アテーナイの客 そこでわたしどもがさういふ風になる之等の事情の總べてといふものは、怒、愛、倨傲、無知、貪欲、怯懦、なほ又次のもの、即ち富、美、力、及び更には快樂によつて酔ひ痴れさせるもの總べてでありますね。が之等のものに關して第一に試験をなすことの爲めに、次に修練することにおきまして、酒中の検査法と訓練とを除いては、安價で且つ一層無害などういふ快樂が一層適當であると申すことが出來ませうか、尤もそれが何とでもして慎重に行はれるとすればですがね。では何故かは考へて見たらよいのです、無數の不義の生ずる源である、度し難い粗野な精神の持主についてです、彼と契約に入つて、これについての危険を冒しながら、試験をする方が危険でせうか、

プラトーン 「法律論」

それともディオニュソスの祭禮に於きまして彼と一緒になつてする方ですか。或は又戀愛に對して墮弱な或る精神の検査をするのに、それに自分の娘や息子や妻を託して、かうして、親身の者に於ける危険を冒しながら、精神狀態を観察したものでせうか。なほ無數の事例を、遊樂を伴ひしかもそれも別に損失を與へるやうな出費もなく觀察する仕方といふものが如何に優れてゐるかについて、人は擧げつくすことは出來ないであります。それに又之等の點につきましてクレイテ
11
一人もその他如何なる人間も、右の相互的試験法が適當でないものではないこと、及び安價性や安全性や迅速性に於て他の諸々の検査法に比べて優れてゐることを疑ふものではないと存じます。

クレイニアス その點は實にその通りですよ。

アテーナイの客 するとこの事は、即ち精神の先天性

と後天性とを知ることが、精神を培ふことを任務とする彼の技術にとりましては、最も有用なる事の中の唯一のものでありませう。然して恐らくは、わたしどもをして言はしめますれば、思ふに、政治術がそれです。さうではありませんか。

クレイニァス まつたくですよ。

(昭和一二・一一・二)